

■ どうして体にやさしいのか？

1. きずが小さい

- 女性でなくとも手術のきずは気になります。
- その点、腹腔鏡手術は美観に優れた手術といえます。
- きずが小さいことは美観だけでなく、痛みを少なくすることが出来ます。

これは術後に起こるさまざまな合併症を減らすことにもつながる重要な点です。

2. 痛みが少ない

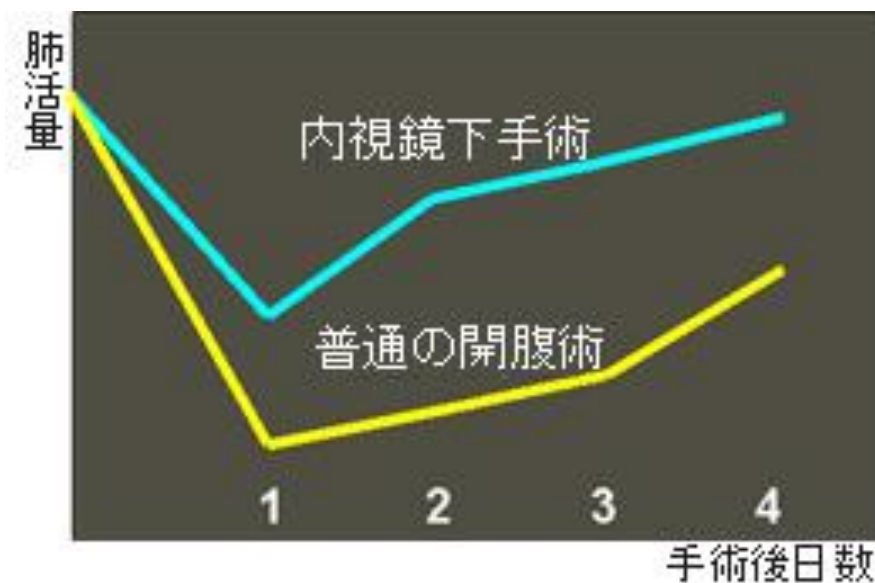
～社会復帰が早い～

早期離床により入院期間も短く、社会復帰も早いといわれています。

～術後肺炎が少ない～

- 痛みが少ないと、早い時期から体を動かすことができます。
- これを早期離床といいます。

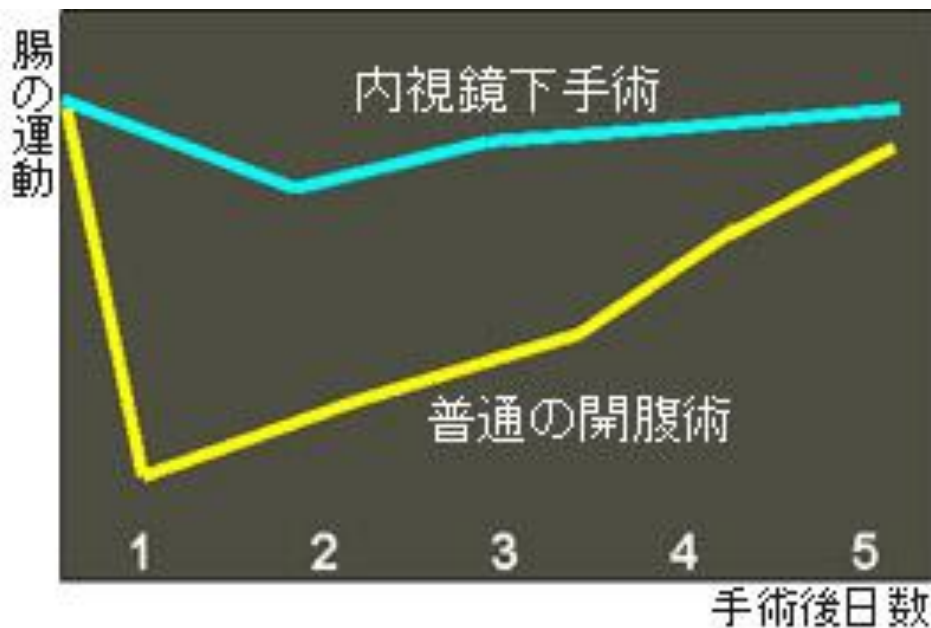
これにより、術後の肺炎が少なくなるといわれています。



3. 腸が”眠らない”

- 術後早期から腸が動いているので、無理なく食事を取ることが出来ます。

早期より食事を取れるということは、栄養状態の回復の面でも重要なことです。



動物を使った実験でも、腹腔鏡下手術は早期に腸管運動が再開し、腸そのものの浮腫みも発生しにくいため運動、吸収の面でも優れていることが証明されています。

4. 癒着が少ない

- きずが少なく（小さく）、早期離床による腸管運動の回復により、癒着が少なくなります。
- 癒着が少なくなることで、腸閉塞の発症を減らすことができます。

5. 出血量が少ない

- 拡大視野のため（肉眼よりくわしく見ることができる）、小さな血管の同定が行いやすくなります。
- 気腹する（おなかに二酸化炭素をいれる）ため、静脈性出血の量が少なくなります。
- 平均的に、開腹手術より、出血量は少なくなります。

6. 免疫力の低下が少ない

- 免疫力の低下が防げるというデータも報告されています。
- 身体の負担が少ないことを私たちは低侵襲（ていしんしゅう）と呼んでいます。